

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念をつくりあげている。運営理念については、当施設の事務所やホールの誰もが見える場所に掲示している。	左記の通り
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input type="radio"/> 現時点では、職員の入れ替わりにより、理念の説明や方針などについてきちんと話をしていない為、共有や実践に向けての取り組みがきちんとできていない。	<input type="radio"/> 職員の入れ替わり時にはきちんとした理念の説明をし、実践に向けて取り組んでいけるようにしていきたい。また、月1回の職員会議でも理念を読み上げ、職員全員で共有し、理念の実践に向けて取り組んでいきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 運営推進会議や行事等を通して理解していただくよう取り組んでいる。	左記の通り
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<input type="radio"/> 挨拶等を行っているが、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいはできていない。	<input type="radio"/> 気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りや、行事への参加の呼びかけなどをする事で、少しでも多くの地域の方々との交流の機会を持てるよう努力していきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="radio"/> 地域活動等への参加が難しく地元の人々との交流ができていない。	<input type="radio"/> 地域の行事への参加をすることで、地元の人々との交流を深めていく努力をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない。	○	地域に貢献できるようなことを職員で考え、小さなことから取り組んでいけるように努力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者は理解し、評価を活かして改善に取り組んでいるが、職員への説明不足により職員自体はあまり理解していない現状である。	○	自己評価及び外部評価によって職員全員が、自分のホームの現状を理解し、今後の改善につながるような意識をそれぞれが持つように今後も取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの状況を報告し、それぞれの立場からのご意見をいただき、サービスの向上に活かす努力をしている。	○	運営推進会議の意見を全職員で共有し、自分達の質も含めたサービスの向上に今後も活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも市町村担当者に相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後は自分達の質の向上も含め、利用者の介護度を落とさないサービスを提供していく為にも密な連携を多く取れるように取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状では、職員全員は理解、活用できていない。	○	職員会議などを通して、全職員に理解してもらうよう努めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状では、職員全員は理解、徹底できていない。	○	日常生活の中でのちょっとした言葉掛けや態度でも虐待になりえるので、全職員がプロとしての声掛けや接し方等ができるように徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の説明を文章に沿って行い疑問点に関しては納得、理解されるまで説明をおこなっている。		左記の通り
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が管理者や職員に不満、意見を言われたことを職員全員で共有し話し合い、それらを運営に反映させている。	○	職員全員が利用者の意見や不満、苦情を真摯に受け止めみんなで共有し合う事で、楽しい生活を送っていただけるように今後も努力していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や電話等で利用者の状態を報告している。	○	今後は定期的に利用者の写真や手紙などを同封し、日頃の状況を報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を玄関に設置し、意見などが上がってきた場合には、それらを運営に反映させている。		左記の通り
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議をおこない、意見、提案を聞き反映できるように取り組んでいる。		左記の通り
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出時の職員の確保や家族の要望に柔軟に対応している。		左記の通り
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職はできるだけ避けたいが、やむを得ない場合があり、そういう時には以前からいる職員が、新しい職員に早く慣れてもらえるような努力や配慮を行っている。		左記の通り

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年を通して職員全員が研修等を受けるように努めている。	○	研修の機会を増やして参加できるよう努めて行きたい。また、職場内研修も実施していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は交流の場が年に数回はあるが、職員の交流の機会はほとんどない。	○	管理者だけではなく、職員も他の事業所の職員と交流する機会を持つことで、お互いを切磋琢磨し合い向上していけるような取り組みをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	今後は個別の面談を定期的実施し、お互いの理解を深めることで少しでもストレスが軽減できるように努力していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けるような職場になるよう勤めている。		左記の通り
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から今の生活で困っていること、不安なことなどを聞きそれを受け止めるよう努めている。		左記の通り
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から困っていること、不安なことなどをよく聞き、受け止める努力をしている。		左記の通り

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス等も含めた上での対応に努めている。		左記の通り
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族と相談しながら早く慣れてもらうように努めている。		左記の通り
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	少しの時間でも共に過ごし支えあう関係を築くよう努めている。	○	職員が利用者から教えていただいたり、お互いを支えあう関係の中で一緒に過ごしていく楽しい時間を今後も築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に考え、利用者を支えていくという関係を築くよう努めている。	○	本人の家族への要望、家族の思いなどを考慮しながら関係が希薄にならないように今後も努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	よりよい関係が築いていけるように支援している。		左記の通り
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。		左記の通り
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格を把握し、利用者間で孤立しないように常に声かけをし、支え合えるように努めている。		左記の通り

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、継続的な関わりが必要な場合については、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		左記の通り
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	今後は、今まで以上に利用者本位を徹底していけるように努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や趣味などの把握に努めている。	○	日々の会話の中で生活歴、趣味などを聞き出し、日常生活においてそれが活かせるように今後も努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力の現状を把握するように努めている。		左記の通り
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らすために、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○	利用者や家族、職員との話し合いを増やすことで、利用者本位のより良いサービスのための介護計画が作成できるよう努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画を作成している。	○	職員全員が利用者の変化にいち早く気付き見直し、現状に即した新たな介護計画を作成できるよう職員全員で取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録や日誌に記入することで情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		左記の通り
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、墓参りなど柔軟に対応している。遠方の家族等からのホーム宿泊の要望にも応じている。		左記の通り
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向を大切に、外出行事など必要性に応じて地域資源と協力しながら支援している。		左記の通り
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	状況に応じて福祉用具貸与事業所や居宅ケアマネジャー等との話し合いを行い、他のサービスを利用するための支援をしている。		左記の通り
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	状況に応じて地域包括支援センターや権利擁護等について協働している。		左記の通り
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に適切な医療を受けられるよう支援している。		左記の通り

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も、利用者の状態を見ながら専門医への相談や治療などが受けられるよう継続して支援していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		左記の通り
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		左記の通り
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>できるだけ早い段階で、利用者や家族、ならびに主治医等と話し合いをしながら、重度化や終末期のあり方についての方針を打ち出し全員でその方針を共有するよう努めていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>主治医や訪問看護との連携を図ることで、重度や終末期のケアができるのかということを職員全員で検討していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>本人の環境の変化によるストレスを少しでも軽減できるように、今後も利用者や家族と情報交換をおこなっていききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような対応には、職員同士が注意し、個人情報の取り扱いにも気をつけている。	○ 無断で記録、情報を持ち出しせず、個人情報の取り扱いには注意するよう今後も努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望などをゆっくり聞き、できるだけ自己決定をおこなっていただくように支援している。	○ 今後も、自己決定をしていただけるように、職員一同が自分達のペースではなく、待てばできるということを心がけたケアができるように努めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の想いを大事にし、できる限り、個々のペースに沿った支援をするよう努めている。	左記の通り
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	○ その人らしい身だしなみができるよう化粧品等の購入、ちょっとしたアドバイス等をおこないながら、その人らしい生活を今後も支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ利用者の好みを献立に取り入れ、利用者ができることは一緒におこなうように努めている。	○ 今後は、一人ひとりの残存能力を見極めたうえでみんなが何かしら関わられるように職員が配慮し、役割を持つことで生きがいとなるように支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	正月、行事等で利用者の望むお酒、飲み物などを準備し喜んでいただくよう支援している。また、本人、家族、主治医と相談しながら、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	左記の通り

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の声かけをおこないながら、個々の排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄ができるよう支援している。	○	今後も声かけにより失禁が軽減し、オムツを使用せず気持ちよく自立した排泄ができるように支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合により、1日おきの入浴をおこなっているが、希望があれば入浴日以外でも入浴ができるように支援している。	○	今後は、できる範囲で個々の希望にあわせて入浴を楽しめるように支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して休まれるよう支援している。		左記の通り
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		左記の通り
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じて所持されている方もいるが、ほとんどの方がホーム側でお預かりしている。外出時はできるだけ利用者に出し入れをしていただくように支援している。		左記の通り
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう努力している。	○	今後はできる限り個別での外出を実施し、その人らしい暮らしを支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に数回ではあるが、遠足等で機会を作り支援している。	○	今年も年間通して、行事などでの外出の機会を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や電話などのやり取りができるよう支援している。		左記の通り
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問ができ、居室でゆっくり過ごせるよう工夫している。		左記の通り
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が理解し取り組んでいる。	○	資料なども用いながら話し合い、全職員が理解するように今後も取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関などの出入り口には鍵を掛けないように取り組んでいる。		左記の通り
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		左記の通り
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、裁縫箱、薬などは常に統一した場所に保管し危険を防ぐ取り組みをしている。		左記の通り
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	まだまだ不十分ではあるが、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	今後も、研修会等への参加や職員会議等で話し合いをおこなうことで、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備え、全職員が応急手当や初期対応の訓練をおこなうよう努めている。		左記の通り
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回は避難訓練をおこなっているが、地域の人々の協力を得られるような働きかけはしていない。	○	常に災害時、どのように行動をすればよいかを話し合い、何が起きても全職員がすぐ対応できるよう努めていきたい。また、地域の人々の協力を得られるような働きかけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		左記の通り
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		左記の通り
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報を個人ファイルに常備し、用法を理解し服薬の見守り、誤薬防止等に努めている。		左記の通り
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲用し、できるだけ水分を取るよう声かけをしたり、昼食時にバナナ入りのヨーグルトを必ず食べていただくように工夫している。	○	排便チェック表にて把握し、排便が見られない場合は主治医の指示通り緩下剤等にて対応していく。また左記の飲食物に関しても今後も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの声かけをおこない、就寝前には義歯洗浄剤を使用している。	○	毎食後の口腔ケアの声かけを行い自立した口腔内の清潔保持ができていけるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		左記の通り
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい等の徹底は実行している。		左記の通り
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理時に、エプロンを替え三角巾を使用し、手洗いの徹底、食品の日付の確認等に気をつけている。		左記の通り
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺に花を植え、親しみやすく、安心して出入りができるように明るい雰囲気づくりに努めている。		左記の通り
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や利用者の作品を飾ったり、季節に応じた飾り付け等を行うことで、居心地欲過ごしていただけるように工夫している。		左記の通り
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、利用者同士が話しをしたり、思い思いに過ごせるように工夫している。		左記の通り

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	利用者の使っていたものなどを、持ってきていただき利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		左記の通り
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	利用者に応じて温度調節や室内の換気には常に配慮して いる。		左記の通り
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	できるだけ障害物をなくし、安全かつ自立した生活が送れる ように工夫している。		左記の通り
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	一人ひとりのわかる力を活かし、自立して暮らせるように工夫 している。		左記の通り
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	自由にベランダに出たり、畑や庭にて活動ができるように活 かしている。		左記の通り

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者本位、自立支援、介護度を落とさない、この3つをテーマに現在ケアの見直しや改善を、運営者をはじめ職員全員が同じ方向性を持って取り組んでいけるように力を入れている。
- ・健康管理・栄養バランスも考慮した食事摂取ができるように、管理栄養士に相談しながら食材の調達や調理をしていくように職員全員で取り組んでいる。
- ・利用者が明るく、時には利用者同士が助け合いながら毎日を楽しく過ごしていただけるように職員全員で同じ視点を持って取り組んでいる。